

平成31年度(令和元年度)

北島学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ① 自分の考えや思いを自分の言葉で表現する力を伸ばす指導の充実
- ② 学校と家庭の連携による学習習慣の確立

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 全般的に落ち着いた態度で、基礎的な問題や課題に対しては、意欲的に取り組むことができる。	基礎的・基本的な事項について、繰り返し粘り強く取り組み、学習に対する興味・関心・意欲を身につける。	定期テストでの基礎的・基本的な事項の正答率を80%以上にする。			
課題 新しい課題に対しては、興味関心を持ち、意欲的に取り組むことができるが、繰り返し確認していく学習で、根気強さや意欲が不十分になっていく傾向がある。	①朝学習のセミナー、自主学習などの提出率をチェックし、継続的に取り組めるよう指導する。 ②基礎的・基本的な内容の小テストを実施し、合格点に達しなかった者には補充学習をする。 ③授業はじめの目標(めあて/ねらい)を生徒に提示する。	①自主学習ノートの提出率を90%以上にする。 ②国・数・社・理・英の5教科すべてで小テストを実施することを目標とする。 ③授業はじめの目標提示を実施した教員割合を90%以上にする。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習方法がわかっていたり、指示された内容がはっきりしていたりすることに対しては、意欲的に取り組むことができる。	自分の考えや思いを目的や条件に応じてわかりやすく相手に伝えることができる。課題解決のために資料や情報を効果的に活用することができる。	「自分の考えや思いをわかりやすく相手に伝えることができない、あまりできない」と答える生徒の割合を10%以下にする。			
課題 答えがわかっているにもかかわらず、自分の考えや思いを表現することが苦手な生徒が多い。自主的に表現していきけるよう工夫が必要である。	授業の中で考えさせる場面や自分の考えや思いを表現させる場面を、あらゆる機会を捉えて設け、言語活動の充実を図る。	1時間の授業の中で、自分で考えたことや思いを文章に表現したり、発表したりする場面を設ける。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた課題については、ほとんどの生徒がまじめに取り組む、提出することができる。	目標を持ち、それを達成するための計画を立て、家庭学習に意欲的に取り組むことができる。	家庭学習を毎日1時間以上できた生徒の割合を80%以上にする。			
課題 家庭学習が十分に定着していない傾向がある。自主学習の内容に大きな差があり、何をしようかわからない生徒も少なくない。	①各教科で課題を出し、家庭学習の充実を図る。 ②生徒自らが作った学習計画のもと、家庭学習に地道に取り組むことを習慣づける。 ③進路を見据えた学習指導を行う。	①国・数・社・理・英の5教科において、テスト前だけでなく、定期的に課題を与える。 ②テストの前には目標とそれを達成するための計画を立て、テストの後には反省をさせる。それをもとに、三者面談時に生徒の学習状況についての話し合いを行う。 ③将来の具体的な目標をもつ生徒の割合を80%以上にする。		評価	次年度における改善事項

平成31年度(令和元年度) 学力向上ロードマップ

